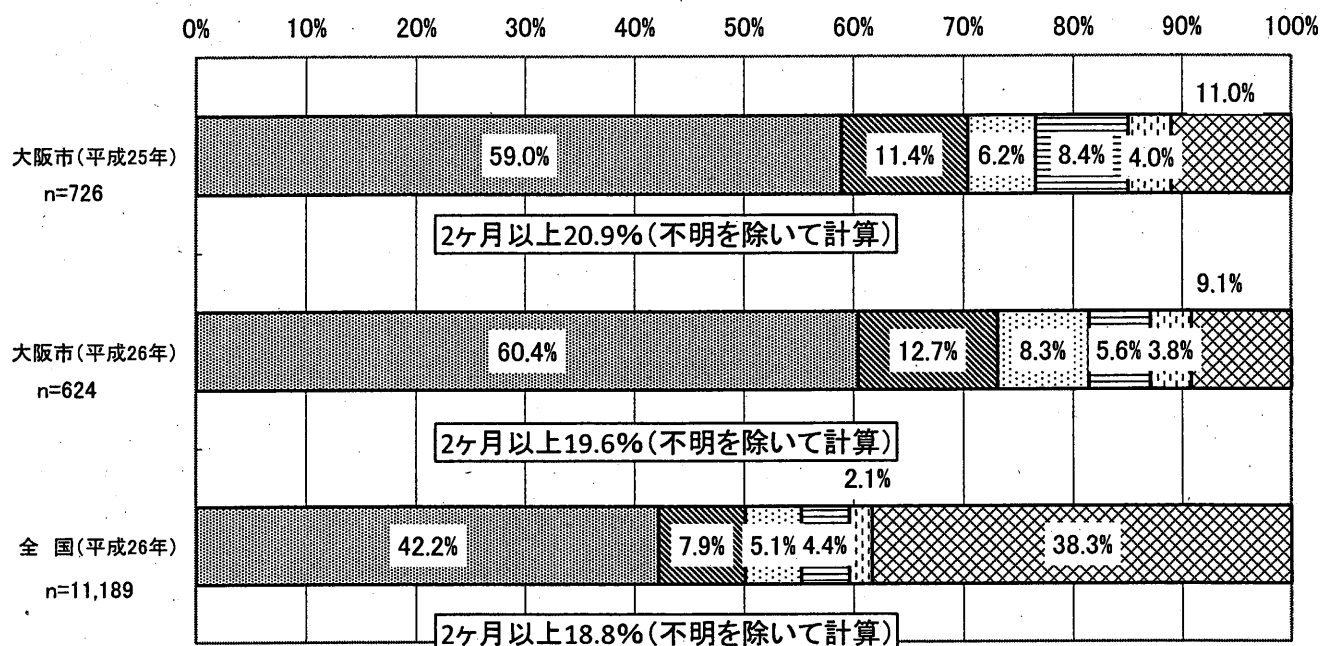


1 有症状肺結核患者における発見の遅れ（平成25・26年）

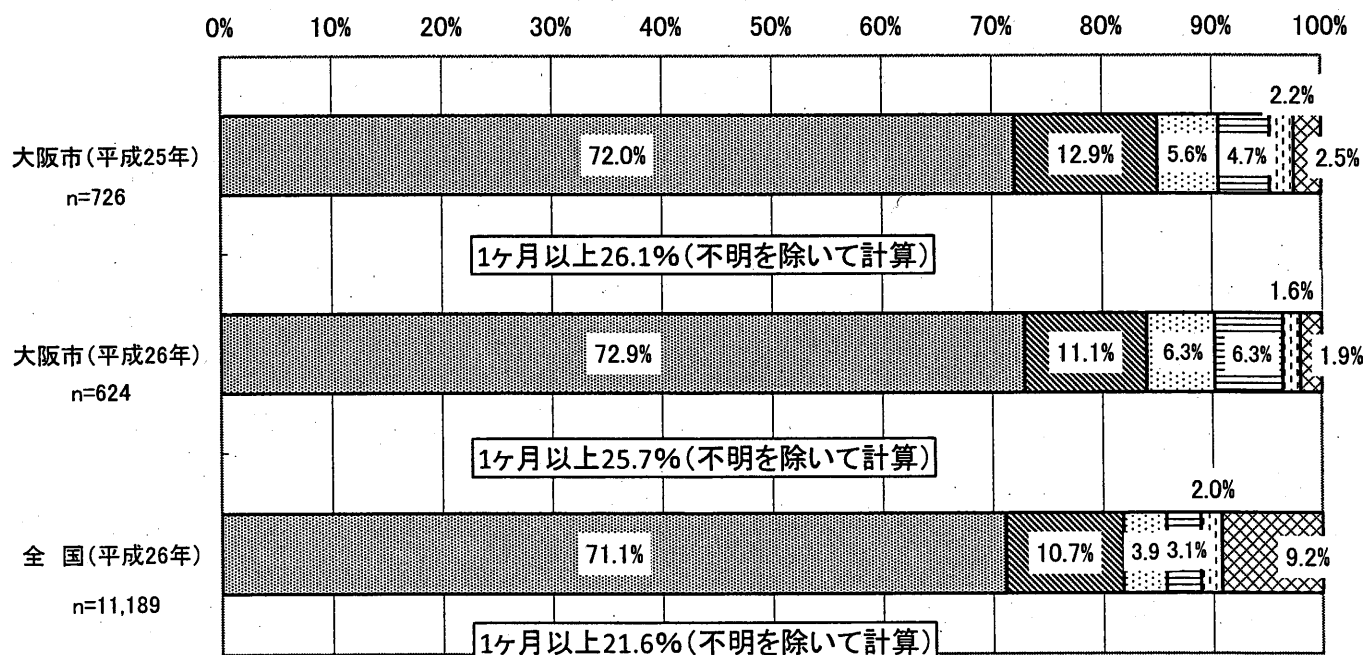
■ 1か月未満 ■ 1～2か月 □ 2～3か月 ■ 3～6か月 □ 6か月以上 ■ 不明

（1）発病から初診までの期間



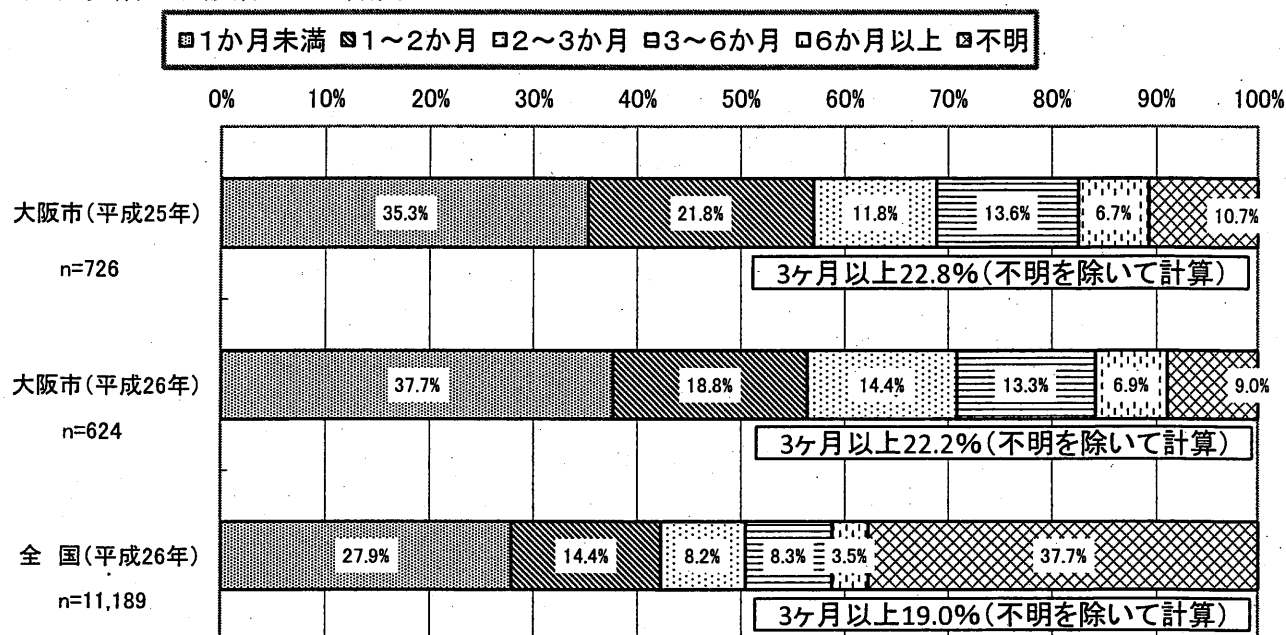
○ 不明を除く大阪市の受診の遅れ(期間が2か月以上)の割合は平成26年19.6%であり、平成25年20.9%より改善していた。全国は18.8%であり、大阪市は全国より受診の遅れのある割合が高かったが、全国では不明の割合が38.3%と高かった。

（2）初診から診断までの期間



○ 不明を除く大阪市の診断の遅れ(期間が1か月以上)の割合は、平成26年25.7%であり、平成25年26.1%と比べ改善していた。全国は21.6%であり、大阪市は全国より診断の遅れのある割合が高かったが、全国では不明の割合が9.2%と高かった。

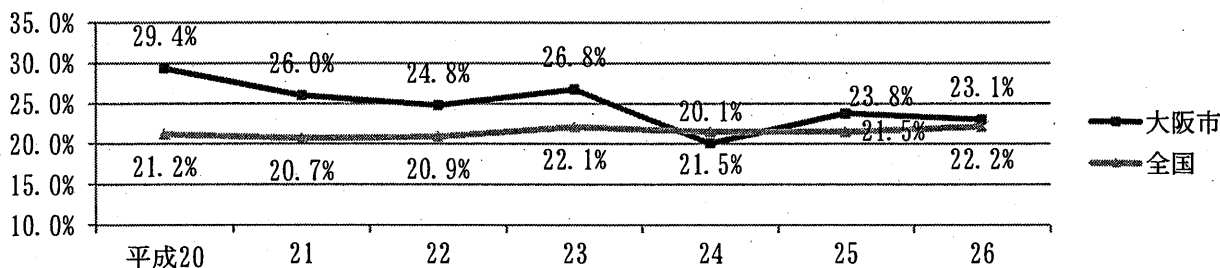
(3) 発病から診断までの期間



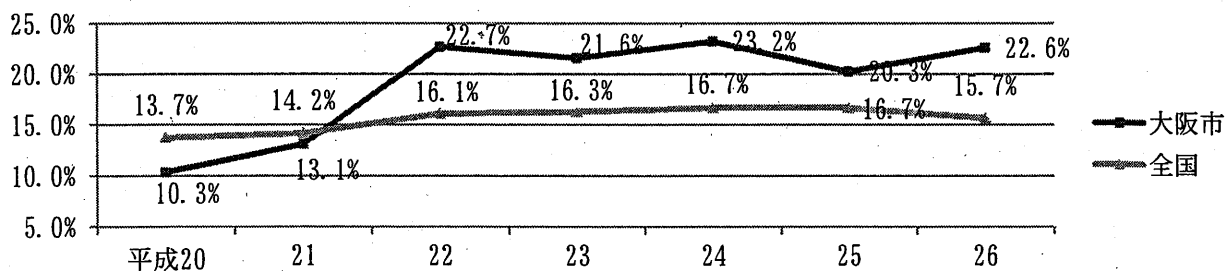
○ 不明を除く大阪市の発見の遅れ(期間が3か月以上)の割合は、平成26年22.2%であり、平成25年22.8%と比べ改善していた。全国は19.0%であり、大阪市は全国より発見の遅れのある割合が高かったが、全国では不明の割合が37.7%と高かった。

(4) 有症状肺結核患者(塗抹陽性)における受診・診断・発見の遅れの推移(不明除く)

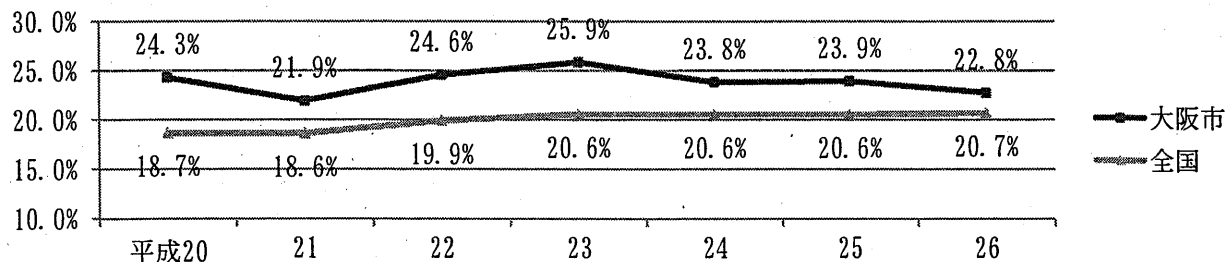
【受診の遅れ】



【診断の遅れ】

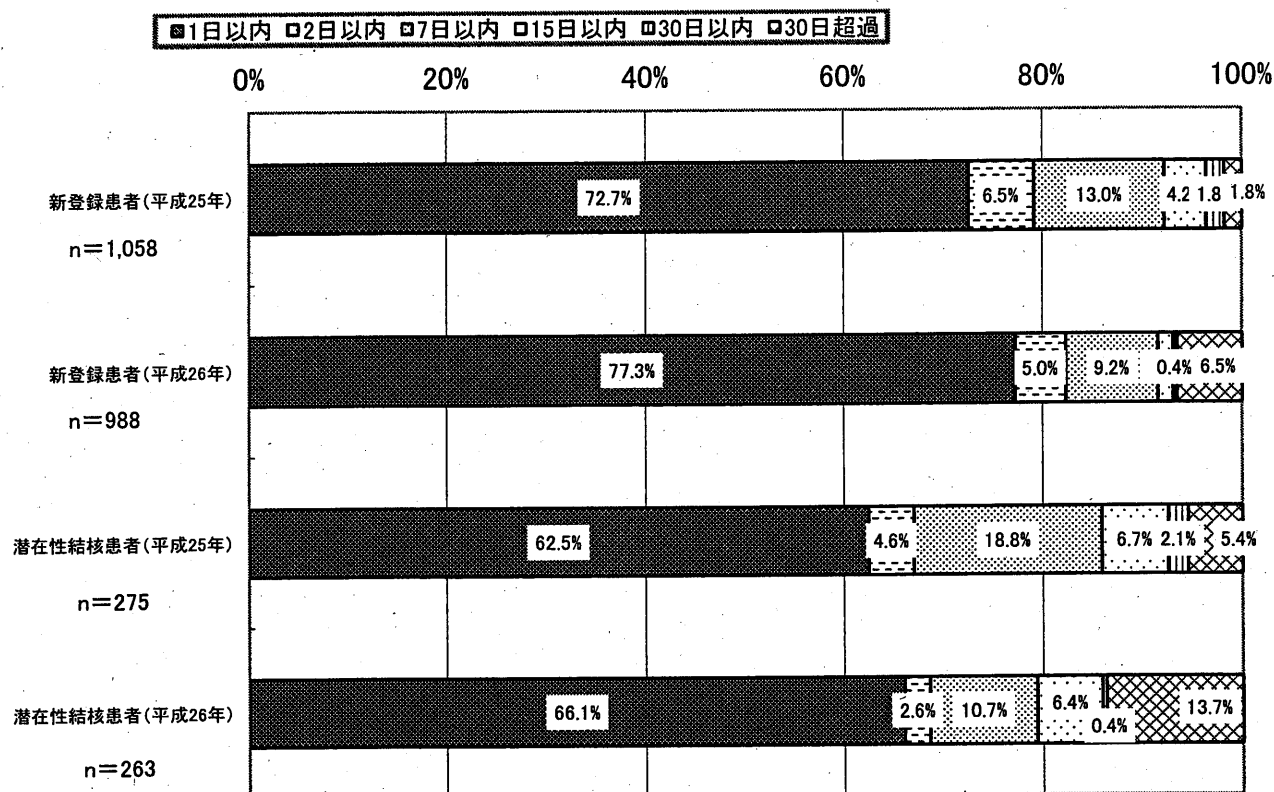


【発見の遅れ】



○ 有症状塗抹陽性肺結核では、受診の遅れは平成25年23.8%から26年23.1%へと改善したものの、全国の22.2%を上回った。一方診断の遅れは平成22年以降全国より高く、平成26年は22.6%であった。

2 発生届までの期間（平成25・26年）



- 新登録患者の発生届が1日以内に提出されていたのは、平成25年72.7%から26年77.3%へと改善していた。一方潜在性結核患者では、平成25年62.5%から平成26年66.1%へと改善していた。

3 ハイリスク集団における結核健診での患者発見（平成26年）

（1）管理健診、定期・住民健診

種別	受診者数	結核患者数	発見率(%)	備考
管理健診	377	1	0.27	結核登録者に対して、結核の予防または医療上必要が認められるときに行う健診
定期・住民健診	7,761	8	0.10	特定健診やがん検診に併設及び各区保健福祉センター等にて実施している結核健診

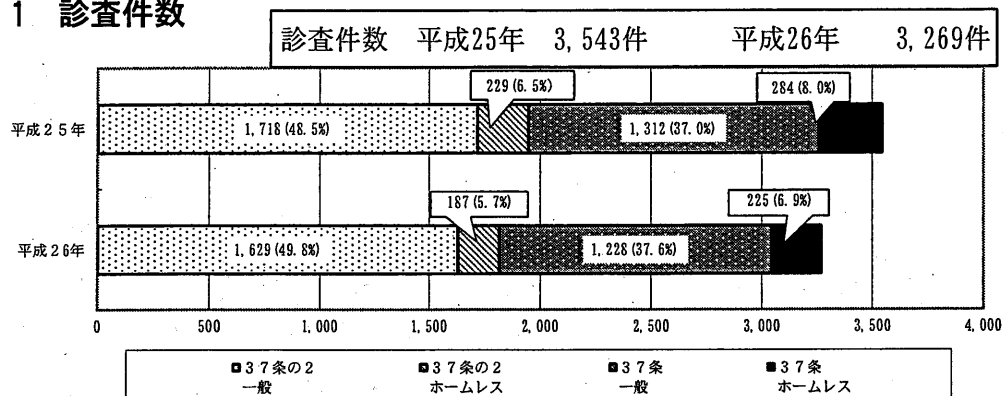
（2）リスクグループへの健診

種別	受診者数	結核患者数	発見率(%)	備考
あいりん健診	2,965	7	0.24	あいりん地域における検診車を利用した健診
外国人に対する健診※	2,411	2	0.08	日本語学校に所属する外国人に対する結核健診（専修学校等は2年次以降の学生に対して、他の学校については入学時健診を含む）
高齢者に対する健診※	2,009	1	0.05	老人保健施設に入所している高齢者、老人福祉センター利用者を対象とした結核健診

※平成23年4月より実施

- リスクグループへの健診における患者発見率は、あいりん健診が最も高く0.24%、次いで外国人に対する健診0.08%、高齢者に対する健診0.05%の順であった。

1 診査件数



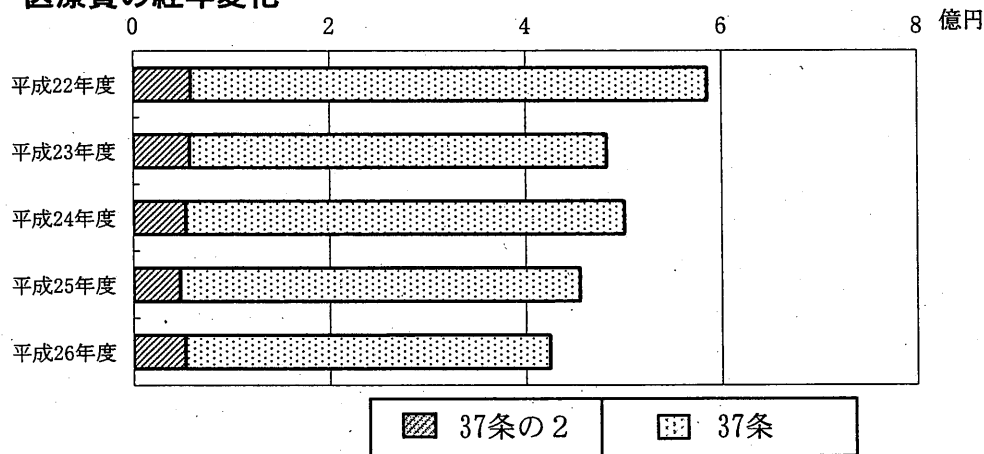
- 一般の診査は、平成25年から26年にかけて、37条、37条の2いずれにおいても割合が増加していた。一方、ホームレスの診査件数についてはいずれも減少していた。

2 診査結果

			申請件数 (診査件数－ 保留数)	合格	%	不合格	%
一般	37条の2	平成25年	1,701	1,690	99.4	11	0.6
		平成26年	1,617	1,594	98.6	23	1.4
	37条	平成25年	1,309	1,299	99.2	10	0.8
		平成26年	1,228	1,216	99.0	12	1.0
ホームレス、 あいりん地域居 住者	37条の2	平成25年	220	214	97.3	6	2.7
		平成26年	185	164	88.6	21	11.4
	37条	平成25年	284	282	99.3	2	0.7
		平成26年	225	219	97.3	6	2.7

- 診査合格率は、37条、37条の2いずれにおいても、平成25年から26年にかけて一般・ホームレスともに減少していた。

3 医療費の経年変化



- 医療費は、平成26年度は25年度と比べ37条の2が増加したが37条は減少し、合計では3千万円余り減少した。22年度と比べると1億6千万円以上減少している。

	37条の2	37条	合計
平成22年度	57,231,943	527,994,816	585,226,759
平成23年度	55,797,145	426,927,654	482,724,799
平成24年度	51,963,933	448,242,926	500,206,859
平成25年度	46,361,451	407,964,666	454,326,117
平成26年度	51,294,848	372,452,425	423,747,273

※医療費は年度表記。(3月診療分～2月診療分)

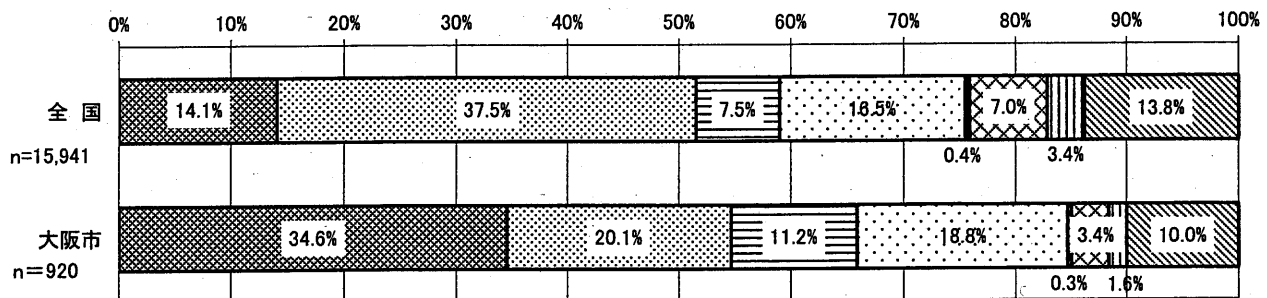
(単位：円)

1 治療成績（平成25年新登録肺結核患者）

※結核発生動向システムより

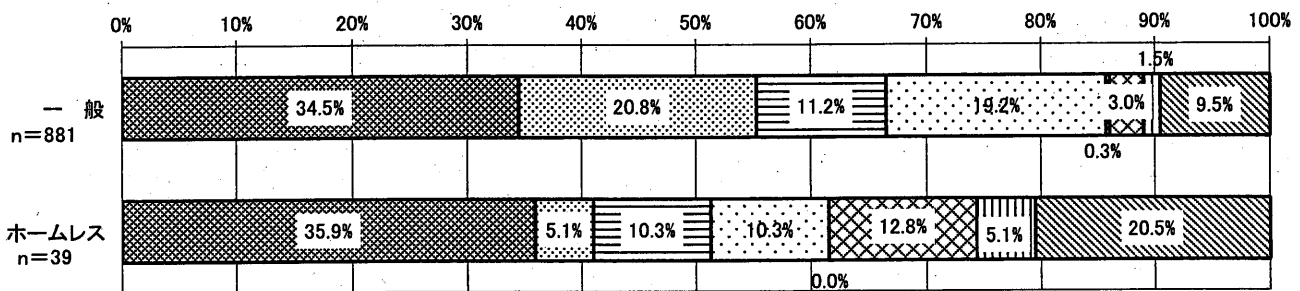
■ 治癒 □ 治療完了 □ 12か月を越える治療 □ 死亡 □ 治療失敗 □ 脱落中断 □ 転出 □ 判定不能

（1）大阪市と全国（総数）



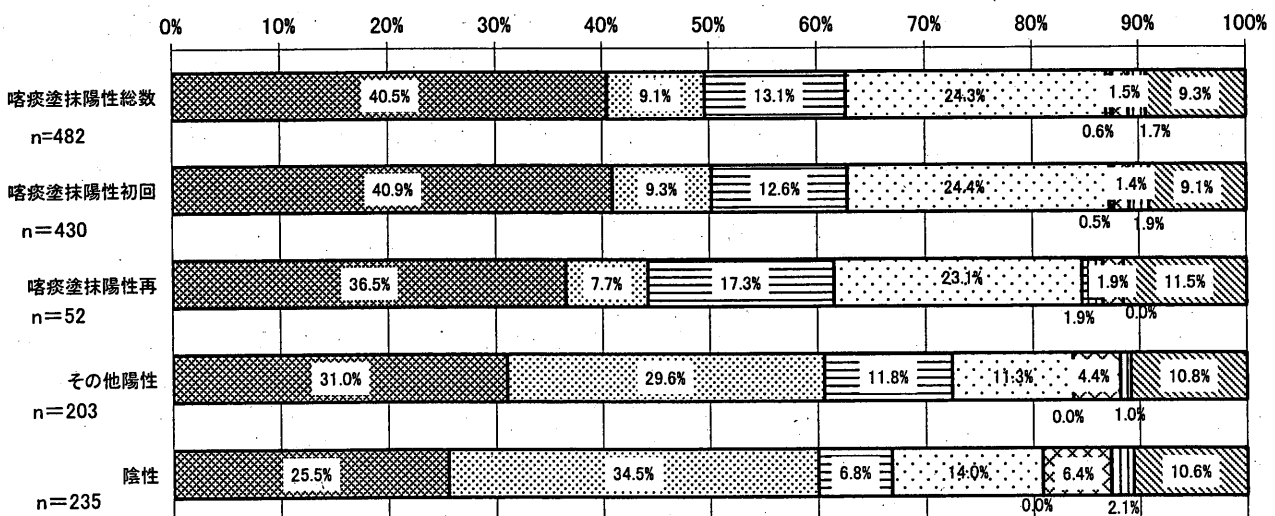
○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、大阪市54.7%であり、全国51.5%より高かった。一方治療失敗・脱落中断割合は、大阪市3.7%であり、全国7.4%より低かった。

（2）一般・ホームレス（総数）



○ 治療成功割合（治癒と治療完了の和）は、一般55.3%、ホームレス41.0%であり、一般の方が高かった。治療失敗・脱落中断割合は、一般3.3%、ホームレス12.8%であり、ホームレスの方が高かった。

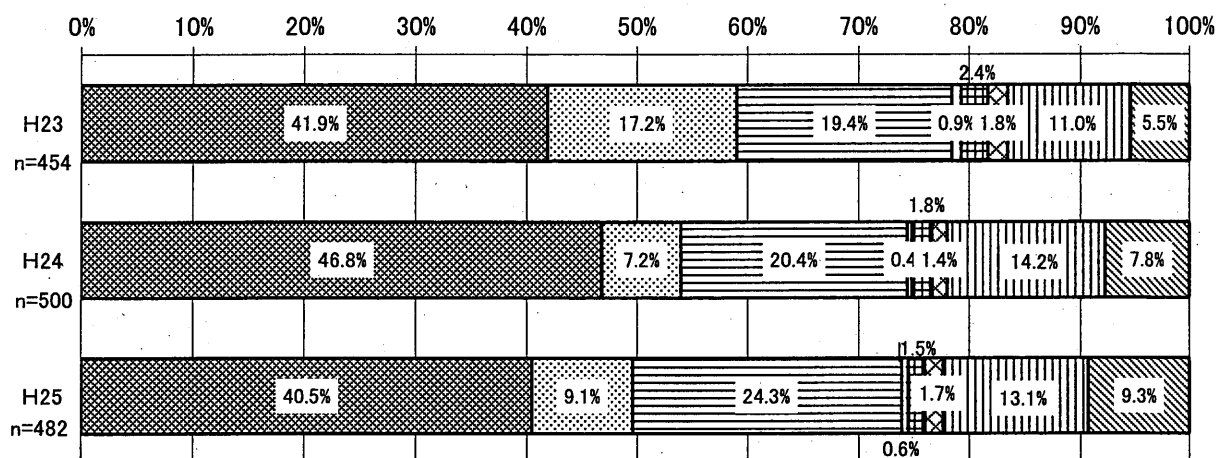
（3）総合患者分類別



○ 脱落中断割合は、喀痰塗抹陽性では1.5%と極めて少なかった。一方陰性は最も高く6.4%であった。次いでその他陽性が高く、4.4%であった。

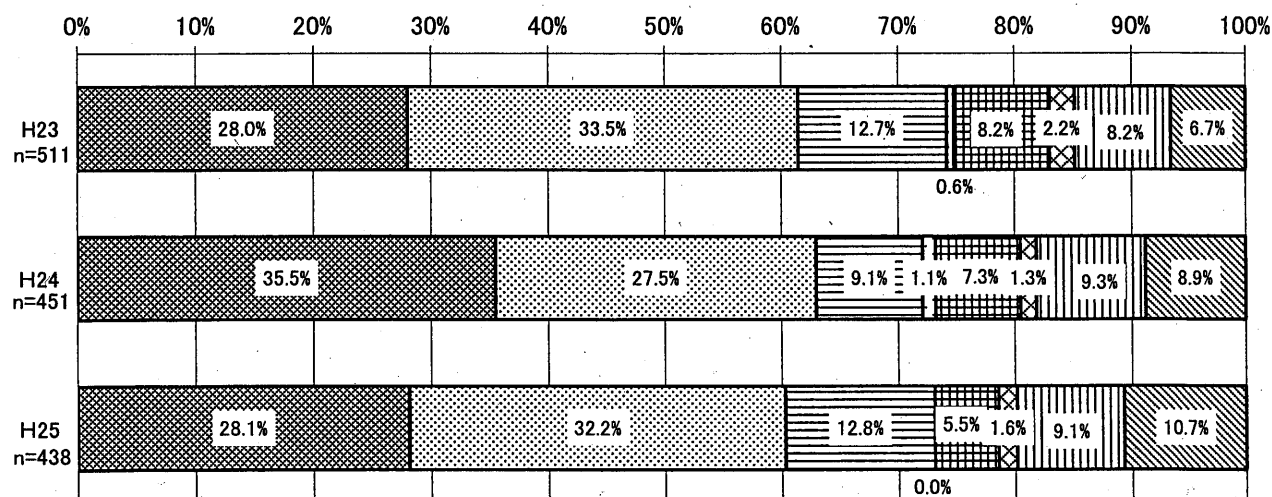
■ 治癒 □ 治療完了 ■ 死亡 □ 治療失敗 ■ 脱落中断 ■ 転出 □ 12か月を越える治療 ■ 判定不能

(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者の治療成績の推移



○ 治療成功割合 (治癒と治療完了の和) は、平成24年54.0%から平成25年49.6%へと減少した。
 一方、死亡割合は平成24年20.4%から平成25年24.3%へと増加した。
 また脱落中断割合は平成24年1.8%から平成25年1.5%へと減少した。

(5) 喀痰塗抹陰性肺結核患者の治療成績の推移



○ 治療成功割合 (治癒と治療完了の和) は、平成24年63.0%から平成25年60.3%へと減少した。
 一方、死亡割合は平成24年9.1%から平成25年12.8%へと増加した。
 また脱落中断割合は平成24年7.3%から平成25年5.5%へと減少した。